

◆生育状況について J A管内 川中島白桃

	発芽	開花	満開	落花
平年	3/25	4/13	4/20	4/28
令和8年	/	/	/	/
令和7年	3/26	4/14	4/20	4/26
令和6年	3/31	4/12	4/18	4/25

◆当面の重点作業について

1. 摘蕾を適期に実施する。※実施方法等は、前回情報参照。
2. 人工受粉の徹底、結実安定・適玉生産を図る。
3. せん孔細菌病対策を徹底する。

◆弱樹勢対策の追肥について

1. 施用時期：満開～落花期（落花5～7日後頃まで）
2. 使用資材・施肥量：有機専科 1袋/10a当り
3. 留意事項：有機専科に代えてノルチツソ0.5袋を使用してもよい。

◆樹勢衰弱樹対策・結実促進対策の葉面散布について

1. 散布時期：開花後頃
2. 使用葉面散布肥料
 - 1) 樹勢衰弱樹の場合：アミノメリット青500倍（水100ℓ当り200g）
 - 2) 中庸な樹勢で、結実促進したい場合：アミノメリット黄500倍（水100ℓ当り200g）
3. 留意事項
 - 1) 凍霜害により、結実確保が難しい場合は、使用しない。

【もも・ネクタリン薬剤防除】

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期：開花直前

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量97ℓ当り・10a当り散布量：350ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
固着性展着剤アビオン	1,500倍	66ml	—	—
I C ボルドー 4 1 2	33倍	3kg	—	せん孔細菌病

3. 散布上の留意事項
 - 1) ももは、I C ボルドー 4 1 2に代えて4-1 2式ボルドー液（水100ℓ当り生石灰1,200g + ⑩硫酸銅400g）を使用してもよい。ネクタリンは登録がない、4-1 2式ボルドー液並びにI C ボルドー66Dは使用できない。
 - 2) 住宅・駐車場の近くで汚れを心配される場合は、ボルドーに代えて、ムッシュボルドーDF500倍（水100ℓ当り200g）を散布してもよい。
 - 3) アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000倍（水100ℓ当り33ml）を使用してもよい。
この場合、K. Kステッカーは凝固するため、ボルドー液調合後に混用する。

◆灰星病対策について

灰星病は、せん孔細菌病と病斑の症状が似ている。区別がつかなくとも、共に処分する。症状は満開期頃から見え始めるので、一斉点検を行う。

開花期に「花腐れ」症状となっている部位がある。発見したら早急に、病斑部の切除を行い、切除した病斑部は、焼却処分の実施を徹底する。

◆せん孔細菌病春型枝病斑対策について

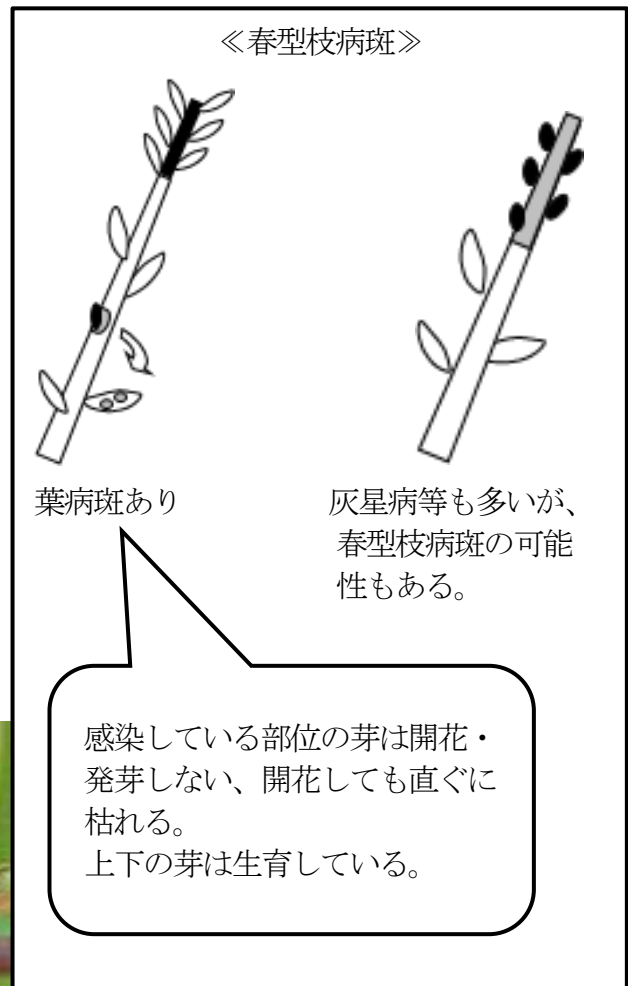
農薬散布だけではせん孔細菌病は撲滅できない。春型枝病斑の点検・切除・処分一連の作業は撲滅の必須作業です。

1. 病害特徴と感染・春型枝病斑と葉への感染症状の特徴

- 1) 細菌の感染によって発生する病害。
- 2) 強い風雨で葉に傷がつき、また細菌が飛び散り感染する。
- 3) 弱い、黄金桃・極晩生種・川中島白桃・あかつき等は、特に注意する。
- 4) 春型枝病斑は開花期頃から現れ、芽基部がやや陥没し、薄い黒褐色を呈する。5月中下旬頃には黒色の典型的な病斑となる。枝病斑は芽基部に発生し、陥没してひび割れる。ヤニを噴出することもある。
- 5) 枝先端の花腐れ・枝枯れは、灰星病の可能性も高いが、いずれの場合でも剪除は必要です。
- 6) 葉では始めに葉脈で区切られた不整形の斑点ができ、淡褐色～紫褐色の斑点となり、やがて病斑部分が乾いて抜け落ち不整形の穴になる。



写真の○印部分が、被害例です。



2. 防除対策

- 1) 薬剤防除だけでは防ぎきれない難病害であるため、耕種的防除が重要になる。
- 2) 耕種的防除として、春型枝病斑の剪除が最も重要になる。できるだけ、早く剪除し感染拡大防止を行う事で、かなり被害を軽減できる。発病は6月までだからあるため、2～3回程度に分けて、園内の巡回し病斑切除を行う。
 - ①結果枝をよく見る。花腐れ症状がある、芽の基部周辺が褐色に変わっている、亀裂がある、ヤニが出ている等を確認し、病斑を確認する。発見したら、病斑部より3芽程度多く切る。
 - ②葉に病斑がみえたら、上部、又は周辺部に必ず春型枝病斑が存在するため、確認する。
 - ③風当りの強い園や、園の外周部に多いので、特によく確認する。
- 3) 剪除した病斑部は、できるだけ園外持ち出し、土中または焼却処分する。
- 4) 袋掛けも果実感染を防ぐ、重要な方法。発生が多い園は、早めに袋掛けを実施する。
- 5) 薬剤防除は、前述した通り、効果は完全ではないが、重要。なお、散布量をしっかり撒く事。発生が多い園外周もしっかりと撒く事は重要。

1本の樹で5か所程度のせん孔細菌病枝病斑があれば、その樹の果実へのせん孔細菌病の発生は甚大となる。園に行く時はせん定ハサミを常に持ち歩く。

地域全体による一斉防除により防除効果を高め、せん孔細菌病の感染を減らす!!!

◆人工受粉について

主力品種の川中島白桃中心に、自家（花）受粉では極めて結実が悪く、人工受粉が必須作業。人工受粉徹底し、結実確保を図る。一般的な内容は、果樹総合情報No.2参照。

1. 人工受粉を必要とする品種：川中島白桃・なつき・さくら・黄ららのきわみ・西王母等
なお、川中島白鳳・黄金桃等も実施すれば、品質（生理落果減等）の安定につながる。
2. 開薬品種（花粉・花量の多い品種）
あかつき、白鳳（千曲）、黄金桃、白根白桃、なつっこ、フレーバートップ、ファンタジア
なお、川中島白鳳、サマークリスタル、秀峰等も花粉はある。
3. 10a 当り必要花粉量：花蕾で1kg程度
4. 受粉のタイミング
 - 1) 受精能力が高い期間は、開花後4～5日程度まで。この時期重点的に実施する。
早く咲いた花は結実もよく、果実肥大がよい。
俗に言われるタイミングとしては、花弁が白色からピンク色に変わったものを狙う。

